

## Faculty Café（特別版）実施報告

2016/10 報告者 大学総合研究センター職員（川合・松本）

&lt;Faculty Café（特別版）&gt;

日時：2016年10月12日（木）16時～16時30分

場所：19号館 共創館

講師：毛利 裕昭 准教授（商学学術院）

テーマ：グローバル化を背景とした学生の海外体験の支援

## 実施概要

今回の Faculty Café では「グローバル化を背景とした学生の海外体験の支援」をテーマとし、商学学術院の毛利 裕昭 准教授より旧ソ連交流プロジェクトについて実施報告を頂き、合わせて現状の課題について報告頂きました。当該プロジェクトは、ロシア語教員との連携の上、授業とは別に参加者を一般公募し、モチベーションの高い学生を募ってきました。お話の中で、交流プロジェクトに参加した学生は、現地の方々に対して、日本経済や文化、本学に関してプレゼンテーションを行ったり、ディスカッションや文化交流を行うことで、自身の能力向上に役立ってきたことを報告頂きました。一方で、参加学生の経済的負担は大きく、かつ学内での制度として実施してきた訳ではなく、一教員での運営の負担感の大きさについても共有頂きました。報告後、森田大学総合研究センター副所長をファシリテーターとして、参加者が4グループに分かれて、上記テーマを推進するための方策、発生し得るリスクについて意見交換を行いました。参加者から挙げられた意見として、「交換留学の多くが英語圏への派遣となっているが、非英語圏に参加することも学生にとっては、地球全体を知る場合には大きな経験となるのではないか」、「初めて海外交流プロジェクトに参加して得られる経験も大切だが、2回目に経験のあるリーダーとして改めて参加すれば、リーダーシップの発揮や経験の共有等を生み出し、さらに良い教育効果が生まれるのではないか」、「現地では、盗難や治安（テロ）などの外的リスクもあれば、ストレスやアレルギーなど学生個人の内的リスクも存在しているため、海外引率を今後慎重に検討していく必要がある」などが挙げられました。また、平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）で行っている海外プロジェクトについて同センターの島崎 裕子 助教から紹介があり、なるだけ英語圏以外の国・地域で実施していること、リスク管理について、これまでの蓄積を踏まえて徹底的に管理しているが、携帯電話もつながらないような地域では、いつ何が起こるかわからない状況もあり得るので、大学としてこれまで以上に考える必要があることなどを挙げて頂きました。

